

# 建築設計製図を学ぶに当たって

設計製図担当教員 文責・若山滋

## 建築家への道

建築は創造的な仕事です。仮に、建築空間の創造にかかわるすべての人を建築家と呼べば、君たちはすべて建築家のたまごであります。君たち一人一人の、発想、計画、デザイン、制作は、長期にわたって、大きな構造物を形成し、都市空間の一部となって、人々の眼に触れ、利用され、歴史の証人ともなるのです。君たちは今、そのすばらしい仕事の第一歩を踏み出す、栄光につつまれています。われわれはその栄光を応援します。

建築設計製図は、その建築家を生み出すための、伝統ある本学科の中核的な科目です。それぞれ専門をもつ先生方が一丸となって教育に当たりますが、これまでのように与えられた問題を解決すればいいというのではなく、学生自らが、自分で問題意識を創り出し、作品として仕上げていく必要があるのです。

われわれは、名古屋工業大学出身の建築家が有すべき三つの目標を掲げています。

第1に、優秀な設計技術者であること。

建築は、長いあいだ使用され、人命にかかわり、大きなコストがかかるものです。雨が漏ったり、地震で壊れたり、使いにくい、不快である、というようなことのないよう、基礎的な建築設計技術をしっかり身につけることがもっとも肝要です。このことで本学科は社会から高い評価をえています。

第2に、良質なデザイナーであること。

デザインというものは、単なる装飾やこけおどしではありません。その空間につつまれた人々の精神生活を豊かにするものであり、情緒というものをもった人間にとって、機能の一部でもあるのです。一般的な評価を勝ちうる、良質なデザインを基本とします。

第3に、独創的な建築家であること。

建築は芸術の一分野でもあり、ある局面においては独創性が要求されます。これまで本学は、優秀な設計者をたくさん出していますが、有名なアトリエ派の建築家が少なかったのも事実です。なかなか難しいことですが、数年間に一人でも、独創性のある世界的建築家が世に出ることを願っています。

## 設計製図7箇条

### 1. 建築家の作品を観ろ。

アントニオ・ガウディも、安藤忠雄も、旅で建築を学んだ。建築家の作品を観ることは全身で学ぶことだ。

### 2. 建築家のファンになれ。

丹下健三は学生時代ル・コルビュジェの作品集を抱いて寝たという。誰でもいいから、一人の建築家を胸に抱け。

### 3. まず手を動かせ

どんなものでも心に浮かんだことを図にしろ。フリーハンドで、何度も描き直せ。手帳にボールペンでもいい。スケッチブックに鉛筆でもいい。トレペに色鉛筆でもいい。

### 4. いつも考えろ

風呂に入るときも、飯を食っているときも、遊んでいるときも、どんな建築を創るべきか考えろ。

### 5. 発想の成熟と転換を心がけろ

設計は、考えれば考えるほど、描けば描くほど、よくなっていく。一つの形態を成熟させ、そして大胆に転換しろ。変えることをおそれるな。創作の苦勞に無駄はない。

### 6. 製図室でやれ

若いときは切磋琢磨が必要だ。周りの友人から学べ、盗め。そして惜しみなく見せ、遠慮なく批判しろ。大いに夢を語れ。かけがえのない成長とかけがえのない友情を同時につかめ。製図室は君たちの青春の城だ。

### 7. 期限に間に合わせろ

建築の仕事には必ず期限がある。間に合わないものはゼロだ。男なら、いや女でも、何日徹夜しても、必ず間に合わせろ。設計は根性だ。